浴衣作り 夏が楽しみ

伊予農高２年生 ５月完成へ

和裁のマイスター指導

「ものづくりマイスター」（左）の指導を受け、浴衣作りに取り組む生徒

ものづくりで優れた技能や経験を持つ人を国が認定した「ものづくりマイスター」を招いての浴衣作り授業が10日、伊予市下吾川の伊予農業高校であり、生活科学科の2年生18人が和裁の専門家の手ほどきを受け基礎的な技術などを学んだ。

同校では２０１４年度からマイスターによる授業を実施し、16年度も和裁技能士の田中ひとみさん（63）＝松山市＝と山本真規子さん（58）＝松前町＝が指導に当たった。

10日は、浴衣を丈夫に着られるよう補強する肩当て付けに挑戦。生徒はまち針で折り目をしっかりと留めたり、布を裁断したりして丁寧に作業を進め、縫い方や寸法の測り方などを個別に教わった。

浴衣は5月を目標に仕上げる予定。大鼻麗さん（17）は「和服は手作業が多く大変だが、自宅でも服を直せる技術や知識が身に付けられる。夏祭りにみんなで楽しく着ていけるような浴衣を作りたい」と目を輝かせた。

田中さんは「着物を作る喜びや着て楽しい経験をし、職業の選択肢の一つにしてもらえれば」と語った。

（杉本賢司）